

ニーズが高まる小動物ペットに特化し、 より専門性の高い診察・治療を提供

概要

3DマイクロCT「Stella Scan AX」の導入により、ウサギやハムスターといった飼育用小動物（エキゾチックペット）の飼主に対する新しい診療サービス提供の体制を整備

本事業への取り組みの経緯

近年、少子高齢社会を背景としてペットを飼いたいと考える人が増加する中、居住環境の制約等からエキゾチックペット（以下、EP）の飼育を希望する人が増えている。しかし、EP医療の診断及び治療は高度な専門性が要求されるため、それに応えられる獣医師の絶対数が不足している。県内はもちろん東海北陸地域全体でも、EPを専門的に診察している動物病院は少数で、当院にも治療を求めて多くの飼主が訪れている。

さらに、EP診療は患者が小さいが故に実施できる検査や治療に限界がある。当院ではこれまで、持てる設備機器を用いて最大限の診断・治療に当たってきた。それでもEP診療に特化した検査機材の不足を、知識や技術手技、経験でカバーすることに限界を感じ、機材の強化・充実によって、より専門性の高いEP医療の提供を目指すこととした。



事業概要

現状の課題解決に向けて、本事業では3DマイクロCT「Stella Scan AX」を導入した。CTは人医療においても広く普及している診断機器だが、中でも同機は小型の動物に特化し、EPや小型動物の検査に最適となるように開発された、動物病院専用の装置である。今回は、様々なEPでこの装置が正しく使用できるかを検証し、個々の違いを反映した機材の調節や使用を確認した上で、運用マニュアルを作成するなど、検査結果が最適な状態で得られる環境を整えた。

また、飼主に分かりやすく説明することを目的



小型動物用3DマイクロCT「Stella Scan AX」



ウサギ、ハムスター、モルモット、デグー、チンチラなどで有用性を検証



院長 後藤 和男

企業概要

平成15年に開業後、犬猫以外の小動物（エキゾチックペット）を専門に診察する動物病院が少数であることから、そのニーズを感じ、EP診療に特化。専門の待合室や診察室を設け、ウサギ、ハムスター等の小型哺乳類をはじめとしたEP診療を行う。高度の専門性が要求されるEPの診療及び治療を求めて、飼主の間で紹介・口コミが広がり、県内はもちろん近隣他県からの来院者も増加傾向にある。

とし、検査を受けたEP飼主の満足度を測るアンケートを実施して、その体制づくりに取り組んだ。

事業成果

「Stella Scan AX」の導入により、従来のレントゲン装置では確定できなかったEPの病状を診断できるようになり、検査レベルが向上した。また検査結果を3Dの画像で示すことができるので、飼主に病状を説明する上で見た目にも分かりやすく、正しく理解してもらうための強力なツールとなった。加えて、同機は動物に対する負担も少ない検査となり、医療側、飼主側、EP側と、すべてにメリットがあり、近隣にはない革新的サービスが提供できることが分かった。

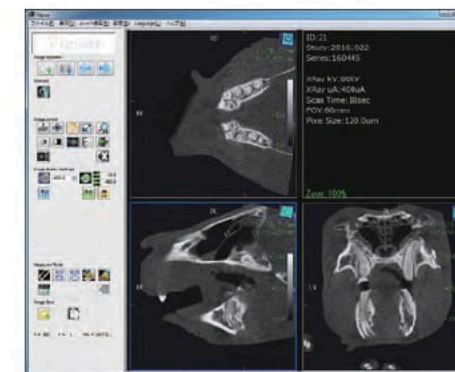


デグー頭部の3D画像

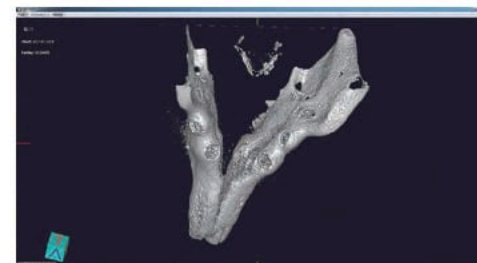
事業の活用状況（補助事業実施後の取り組み）

今回の事業により、当院に「EP診療に特化した診療体制」と「3DマイクロCT Stella Scan AXの診断装置」が揃った。これらは近隣ではまだ類のない独自性を持つもので、当院の強みとして専門的な医療を望むEP飼主の要望に応えることができる。従来は、病名を確定できなかった際、大都市の最新設備を持つ動物病院への転院手続きが必要だったが、当院で即座に病名を確定できるようになったことで、手続き時間が削減でき、提供プロセスの効率化を実現。3D画像による価値の見える化によって、顧客満足度も向上しており、EP専門医というブランド力も、顧客の中で確立・強化されていくと考えている。

また現在、ホームページや口コミを通じて、この体制を周知することで、飼主同士のネットワークによるEPの高度医療を求める飼主の取り込みや、中部・北陸地区一帯への商圏拡大につながっている。



Stella Scan AXによるウサギの頭部断層図



ウサギ下顎部分の3D画像